

第1回学校運営部会 議事録

(1) 日 時：令和6年5月14日（火）午後7時より、（教育会館 第4研修室）

(2) 参加者：委員（12名）（1名欠席）、事務局8名

(3) 内 容

1. 部会長あいさつ

2. 資料説明及び意見交換

①学校運営部会の作業見直し

②学校指定物品について

③連携型中高一貫教育について

《部会長あいさつ》（省略）

《資料説明及び意見交換》

部会長 ・ではレジュメに従って会を進めたいと思う。最初に、本日の会議の進め方について事務局の方からご説明をお願いする。

事務局 ・本日の会議の内容になるが、次第の方をご覧いただきたい。まず始めに今年一年間を通じてこの部会で協議する内容をご理解いただきたい。次に学校指定物品の議論をお願いし、最後に新中学校が目指している連携型中高一貫教育の現状についてご理解をいただければと思う。

（学校運営部会の作業見直し）

部会長 ・今の説明で質問はあるか。なければ説明のように進めたい。では事務局からお願いする。

事務局 ・資料1、資料2をご覧いただきたい。今年度初めての学校運営部会なので今年度協議いただくことをご理解いただくという思いで説明をお聞き願いたい。例年2月に小学校6年生、保護者の皆さんを対象に中学校の入学説明会を実施している。今の6年生は中学校1年生、2年生と現在の中学校に通い、3年生になった時に新中学校に統合する。今年度の中学校入学説明会では入学関係の説明とあわせて新中学校の3年生の生活がどうなるのかを説明することが必要になる。昨年度からもお聞きしているが、当該学年にあたる保護者の皆さんからは質問や不安な部分を聞いている。たくさんの意見に答える準備をしておく必要がある。入学説明会で配布する3中学校の入学のしおりをもとに新中学校での学校生活に関して説明が必要であると思われる事項を提示した。資料2が現在の3中学校の入学のしおりに掲載されている項目の内容になる。若干の記載の違いがあるが大筋よく似た内容を説明している。中部中学校の項目にあわせて他の2校を並べなおしたものになっている。この内容をもとに勝山中学校の案を作ったものが資料1になる。目次・校章・校歌とあるが、今年度の入学説明会では、1、2年次に関しては現状の学校について説明することになると思う。3年次に関しては、校章は令和6年度、校歌は令和7年度に総務部会を中心に作成する予定だと説明することになると思う。①学校紹介で、それぞれ三中学校の立地について書かれているが、これは事務局の方で、新校舎は勝山高校敷地内に立地すると説明することになる。②校訓についても総務部会での検討事項になるが、令和8年度以降に検討する。③教育目標④目指す生徒像についても、すでに建設基本

計画の中でこれに準じたことが書かれており、そこから抜粋してご説明することができると思う。⑤生徒数・学級数・出身別1年生生徒数については見込みをご説明できると思う。ただ、三中学校が集まった場合の学級編成については今後ワーキングチーム会議等で、三中学校を混ぜて新しい学級を編成するか、これまでの学級を少し残した形にするか、検討いただくことになると思う。⑥職員構成についても令和9年度の見込みで説明できると考える。⑦生活のリズムについて、現状で校時表を含めた説明資料はあるが、令和9年度についてある程度作っておく必要があると思う。現状では勝山高校に揃えることになると思うが、その点も協議をいただきたい。二重丸をつけた点に関しては今年度協議をお願いしたいという意味で書いている。⑨教育の内容として、小学校との比較とあるが、3年次については後ほど協議いただく。連携型中高一貫教育について、ある程度の方向性を示すが必要になると思う。教育のあり方についてもワーキングチーム会議等で協議いただき、原案をもとに一般の皆様からのご意見を頂戴したい。⑨学習の評価については、三中学校で徐々に擦り合わせを行い、令和9年の入学の際に合わせて説明する形にしたい。⑩学習への心構え・学習ルールも三中学校で徐々に擦り合わせをお願いしたい。⑪学校行事について修学旅行を例に出すと、現在は3年生の1学期に修学旅行を行うとなっているが、それだと一緒になって日の浅い生徒たちで行くことになる。現在、中学校の校長会で議題に挙げていただき、どの時期に実施するのが良いかを検討いただいている。案を学校運営部会からいただき、こちらで決定をしていく形にしたいと思う。⑫生徒会活動や学級会活動についても現在三中学校それぞれの形があるので、最終的にどうするかは三中学校で徐々にすり合わせをお願いする。⑬部活動については、校長会、中体連あるいはワーキングチーム会議等で見込みをある程度ご提示できるように準備をしたいと思う。準備した案をもとに、学校運営部会でご意見を頂戴したい。⑭学校給食について、給食費に関しては今年度の議題ではなく、次年度以降の議題としてまた協議していく必要があると思う。⑮生活の決まりについて、基本的な生活の約束については、三中学校ですり合わせをお願いしたい。⑯通学について、校時表と絡めて登校時刻や下校時刻が決まるが、スクールバスの運行が大きな議題になる。これはPTA部会で別途協議を頂く予定だが、合わせて学校運営部会で最終的に登下校時刻を決定して頂きたい。⑰服装の規定⑱購入品目については、本日ご協議いただき、説明できるように準備したいと思う。⑲保健関係については三校ですり合わせてほしい。⑳学校集金についても同様に、すり合わせを行い、徐々に統一していく形を取りたいと思う。先輩からのメッセージについて、可能であれば活躍している三中学校の卒業生から応援メッセージなどをいただきたいと思う。中学生生活Q&Aについて、小学校の担任部会の中でも特に高学年部会、5、6年生の先生にお集まりいただき、先生および保護者がどのような不安を感じているのかを集約してQ&Aの形で不安解消に努めたいと思う。この他にもPTA組織や同窓会など、表にない項目等も質問が出ることも考えられるが、現在、PTA部会で検討中であると説明したいと思う。説明は以上になる。

部会長 ・ ご質問等はあるか。

委員 1	・おそらく抜けはないと思うので、これで良いと思う。
部会長	・他にないか。
委員 2	・生活の中では大きな変化点はないと思う。通学方法について、例えば荒土・鹿谷・北郷地区から北部中学校までは現状、自転車で通学することは可能だが、これが勝山高校の位置となると、かなりの距離があり、雪の日は交通手段がかなり生活に影響すると思う。先日、説明会でスクールバスを出す話を聞いたが、この説明では送迎ができないときの不安はかなりあると思う。その辺をもっと説明すると良いと思う。
事務局	・昨年度までのPTA部会では、路線バスをスクールバスとして利用することを考えている。今現在、10 方面 10 ルートで路線バスが走行している。北部地区で言うと、勝山病院を通過して最終的に勝山駅前まで行くルートになっている。それを活用して、ジオを発着場とした運用を考えている。ジオで降りて、地下通路を通過しての登校を考えている。今年度はルートが適切か、時間帯はどうなるか、下校時はどうするか、さらに検討していくことになっている。
委員 3	・鹿谷の矢戸口から、北部中に行く際、7時に乗ると学校に着くのが7時半過ぎになる。矢戸口から勝山高校の方にバスで通学するとなると、いろいろ回っていただければ1時間以上かかるのではないかと。それだけかかるなら送迎した方がよいのではないかと、というところの保護者の不安もあるので、路線バスだけで本当に対応できるのか心配している。
事務局	・昨年の検討では、鹿谷からは2ルートになる。2ルートそれぞれから乗っていただければ、30分から40分で着くと想定している。
部会長	・特別支援学校のスクールバスでは長いと1時間ほどかかり、それがストレスになり学校に着くころには疲れてしまっている生徒もいる。運用の中で配慮が必要になる。また、バスは閉鎖空間なので人間関係が崩れた生徒同士が乗り合わせるとなかなか辛いものもあると思う。またそのあたりも柔軟な対応が求められる。
委員 4	・利用者は乗っているだけでも、かなり疲れを感じている。短縮できる方法が見つかると良いと思う。
部会長	・⑥職員構成について、入学前の説明で職員構成に言及している地域は少ないと思う。説明する意図とは何か。
事務局	・現状のしおりの中に書かれている説明は、1年生が入ったときに先生が何人くらいかという基本情報として書かれている。少しでも先生を知って安心感を持ってもらう意図になる。
部会長	・⑨学習評価について、もちろん学習は大事だが、テストや成績が全てではなく、こういった項目で、こういった頑張りを評価しているという点についても、合わせて説明した方がよい。成績の評価や点数だけに意識が向いてしまうと、辛くなると思うので、その辺りに配慮をしていただけるとよい。
事務局	・承知した。
部会長	・修学旅行について、修学旅行の目的によると思うが、学習成果をどこかで発表するのか。そこで得た知見を中学校生活に反映するという考え方なら、また時期は遅くなると思うが卒業前に行く学校もある。先輩からのメッセージでの先輩は、どの年齢層か。

事務局	・いろいろな学校を見ていると、特に私立では、著名な卒業生から、メッセージをいただいている。そういった意味では、例えばバドミントンの山口さんなど、三中あるいは勝山高校を卒業した著名な卒業生から後輩に向けて、何かメッセージをいただくことを考えている。
部会長	・一人一人を大事に、安全・安心を徹底する必要がある。辛いことがあっても大丈夫なんだと安心できるものをどこかには入れておくの良い。
事務局	・安全・安心ということで、心のケアについても保健関連の項目で深めていきたいと思う。
委員 5	・安全・安心は大事だと思う。自殺といった話題も耳にする。特に新しい学校ということで親も子も不安でいっぱいだと思う。そうした不安を一つ一つ解消していき安全・安心に学校生活を過ごせるようにしてほしい。
(学校指定物品について)	
部会長	・次の説明をお願いします。
事務局	・昨年度、制服と体操服を決定しており、本日はこれ以外の物品について、指定をどうするかをご検討いただきたく思い、原案を提出している。まず資料 4 をご覧いただきたい。これは現在の三中学校の指定物品等について、入学のしおりでの記載内容になる。先ほどの資料と同様に、同じような項目で並び変えると、どの学校も似たことを指定していることがわかる。ただ、細かな規定もあり、そのあたりも含めて、考え方から説明する。まず、目指す生徒像に照らして学校のルールはどうあるべきかを基に検討を進めている。基本的な考え方、原案の説明について、資料 3 をご覧いただきたい。項目として三中学校が指定物品として挙げているものの中から教科で使うものについては外してある。上から順に並べてある。新中学校が目指す生徒像を考えると、生徒の主体性を伸ばす意味で極力学校の指定物品は決めない方がよいのではと思う。一方で決めないことで何を買えば良いかわからず困るという問題もあり、そうしたものについては推奨品を決め、同様の規格のものを認める形が良いかと思う。服装や持ち物等、細かいルール作りについては生徒の主体的な議論に委ねたい。推奨品をどこで吟味するかの問題もあり、毎回委員の皆さんに集まっていただき吟味することも難しい。事務局で確認し、物品販売の中で業者に推奨品として展示販売をしてもらう形をとってはどうか、というのが基本的な考え方になる。通学用カバンについて、今の三中学校の生徒たちは教科書等を入れる通学用カバンと体操服等を入れるリュックサックの 2 つのカバンを使用しており、通学用カバンもリュックサックのように担ぐ事ができる。そうすると、後ろにカバンを担ぎ、前にリュックサックを担ぎ、手には部活動等のものを持ち、非常に不便で不安定な状態にある。今回提案するのは、通学用カバンとしてはリュック型で大容量のものを採用し、教科書やタブレット、体操服を一つにまとめられる形にする案になる。ただ、これについても、指定品か、推奨品かの議論になる。このリュックに入りきらないものを入れるものについては、通学に適したものであれば良いのではという提案になる。服装関係だが、ブレザーは既に決定しているが、ブレザーにエンブレムを付ける仕様になっていた。これについては、中学生からデザインを募集して、いくつか業者の方でデザイン化されたアイデアを提示して、子ども達の投票で決定するというようなことを考えてい

る。リボン・ネクタイについて、制服を提示した時にはリボン・ネクタイは投票の対象外としていた。これは勝山市内の業者にも制服に関わっていただきたいという思いもあり、保留にしていた。直近での業者との協議の中では制服関係のものは難しいとのことで、最終的には制服と同様のメーカーより提供いただく形での提案になる。下に着るポロシャツやカッターシャツについて、基本的にはブレザーなので、制装はカッターシャツにネクタイあるいはリボン、その上にブレザーを着ているという状態を考えている。その中で通常時はポロシャツでも可とし、特に校章を入れずに、無地で白のものであれば良いとの形での現案になる。、トレーニングウェア(体操服)に関しては、既に決定済みになる。内ズック・外ズックについて、特に内ズックについては現在、三中学校それぞれで決まっている。中部中学校はズックに入っているラインの色を学年ごとに分けている。北部中学校は紐の色を学年ごとにわけている。南部中学校は学年での区別はない。新中学校では、基本的には学年によって何か変えるというようなことはしない予定。ただ、室外用のものを室内用で履くと床が傷つくというようなこともあると聞く。そこで何でもありにすると逆に不安の種になるということで、いくつか業者に室内用で提案いただき、それであればどれでも良いとして、形の上では指定するが複数選択肢がある形が原案になる。その他、様々なものもあるが、基本的に子ども達に主体的に考える力を伸ばすという意味でも、特段指定しない形が原案になる。何点か申し上げたが、カバンの件、カッターシャツやポロシャツの件、ズックの件、その他の指定せず自由にする件について、いろいろな視点からご意見をいただきたい。説明は以上になる。

- 部会長
事務局
- ・その他のものは、資料3で言うと、どれのことか。
 - ・資料3の品目の中で、通学靴から通学用レインコートまでの指定がバツになっている9品目のことになる。これらは全て個人購入とし、特段指定をしない形で考えている。
- 部会長
委員1
- ・その他、質問等あるか。
 - ・靴について、指定だと新しく買う時もある程度決め易く感じる。そういう話はよく聞く。何でもありにしたり、業者での適正確認が必要になったりすると、幅広くなり、買う時に個人での判断に迷うと思う。現行の指定した状態で、指定であることに対する不満や困りごとといった話がないなら、今の中学校のやり方で良いと思う。あまりにも自由になり過ぎると集合したとき、統一感にかけると思う。古い考え方かもしれないが、プライベートではなく、学校である以上、そこは統一で良いと思う。自由なら自由でも良いとは思いますが、あくまで個人の意見になる。
- 部会長
- ・今の意見の中に学校で決めなければという発言があったので、まずその辺りをお答えいただきたい。
- 委員2
- ・決まっていることが問題になるか、また、物品を自由にしてほしいという要望があるかという話か。
- 委員3
- ・あるのか、ないのかで言うと、あっても言えないだけかもしれない。あくまで先生から見て靴が指定されていることについてのご意見を聞きたい。自分は保護者としてでしか考えたことがないので、先生としての考えを聞きたい。

- 委員 4 ・ 普段の体育の授業などで使う靴については、成長段階の子ども達が長く履くものなので、ある程度の性能を担保してほしい。何でも良いとしてしまうと、怪我が心配だと体育の教員も言っている。安価である程度の性能が担保されている学校指定の靴で良いと個人的にも思う。いくつかのメーカーを指定したうえで、選択式にする必要は全くないと思っている。指定するのなら、完全に指定すれば良いと思う。
- 委員 5 ・ いろいろな運動をするので、内外ともに指定で良いと思う。また、業者の事情を考えると、実は勝山には靴の業者は現状ない。サンプラザ内のお店をお願いして、そこで販売してもらっている。そこが手を引いてしまったらどうするかという話になっている。業者のことも考えたりすると、一種指定して、内外二種類をお願いするのが現実的だと思う。靴については中学生らしいものとしている。中学生らしいとは何か、それが生徒の考えるネタになると思っている。例えば修学旅行の場合に東京都内を歩いて履き慣れてない靴だと辛いところもあるので、そういう場合には自由にしている。見ているとよく考えて先生に注意されないような靴を履いてきていると思う。セーター等についても、中学生らしいものを着ている。今時の子ども達を見てると学校に着てくるものについては、こだわりのないように思う。
- 委員 6 ・ 内ズック・外ズックについても、子ども達はあまりこだわっていないような気がする。一定のものを提案する方が迷いがなくて良いと思う。校則を生徒会活動の一環として少し緩めた。その中で子ども達は完全な自由を望むわけではなく、ある程度枠を決めたいと言っており、靴でいうと色を指定する形になった。その結果に対して子ども達は満足しているように思う。靴にはあまりこだわっていないと思う。子ども達に任せても問題ないと思う。怪我をしそうなものについては注意している状態になる。
- 委員 7 ・ 生徒会で決められるところは生徒会に任せる部分ということで、これから生徒会に頼む形で良いと思う。今の三中学校は非常に落ち着いている。大きく変える必要はないと思う。靴やセーター、ベスト、ソックスといった部分は、新しい学校が仕上がったときに生徒会で決める形で投げかけてはどうか。子ども達が主体的に生徒会等で考えるべきところだと思う。全てを大人が決めるものではないと思う。
- 委員 8 ・ 勝山高校の場合は、内ズック・外ズックについては一応揃えている。揃える方がやり易いところがあるからだと思う。通学靴に規定はない。通学靴にこだわらなくても学校としては問題がない。華美ではないという言葉がたまに見受けられるが、そこをどう判断するかは生徒だと思う。最近の校則は、どんどん余計なものを取り除いている。取り除く過程で、そうしたことを生徒に考えてもらえば良いと思う。
- 委員 9 ・ 近頃は気候の変動が激しい。そうした中で、カッターシャツは長袖も半袖も自由だと思うが、長袖ポロシャツと半袖ポロシャツについては、学校で厳しく言うべきか、緩めるべきか、迷うところになる。冷房が寒く感じる生徒もいる。長袖・半袖についても、天気予報を見て、気候と健康状態を踏まえて自分で考えて対応すれば良いのではないかな。衣替えが本当に必要なのかという議論になる。長袖・半袖・ブレザーについては、着るか着ないか、そのこの区別をすれば良いと思う。今後も気候の変動が激しくなると思う。暑い日は

教室を冷やし、寒い日は温める。そうすると、風向きや席順によって、体感温度は変わってくる。特に成長期の体のことを考えると温めすぎも冷やしすぎも良くない。北部中学校の夏服は女子は半袖しかない。それが本当に良いのか。寒い時は長袖の体操服を着れば良いと思う人もいるかと思うが、体操服も常に持っているものではない。その辺も子ども達に考えてもらえば良いと思う。ただ、子ども達に考えてもらうにあたり、2年間で三中学校の生徒会を集めて、いろいろな細かなことを決めていくことは、今の学校の状態で可能なのかとも思う。三中学校の生徒の意見をすり合わせるためには、いろんな事前準備が必要になる。三中学校の思いを集めて、生徒会でまとめて、三中学校の生徒会で話し合っ、考えたことをみんなに反映して、最終的な決定をする。これを2年で実現するのは少し厳しいと感じる。ある程度、決めておいて、都合が悪ければ新しい生徒会で直しなさい、という形が教員にとっても、生徒にとっても、負担が少ないと思う。また、新1年生に、この全てを許すとなると、2、3年生についても認めるべきとなる。無理に買う必要はないが、買っても良いと言う必要がある。先ほどの長袖、半袖についても、ある程度、早い時期に決める必要がある。

部会長 ・今の話を受けて、質問等あるか。

委員 10 ・質問ではないが、提案がある。カットシャツ等のことで、無地で白のものとなると、例えば柄のもの、ニット、ボタンダウン等、いろいろある。そういう意味では、例えば無地の柄のないもので、ニットではないものという形で、ある程度指定した方が良いと思う。無地なら何でも良いとなると、無地の中でも、いろいろあるので、そこは決めた方が良いと思う。また、ヘルメットについて、表記上の話になるが、指定品はないが購入は必須であると記載してほしい。バツと表記されているだけでは、買わなくて良いと誤解するかもしれない。県内でも悲惨な事故が起きている。誤解を防ぐために、そうした表記は必要だと思う。

部会長 ・先ほどの説明で、ポロシャツの話があったが、勝山高校のポロシャツはどうなっているか。

委員 11 ・勝山高校のポロシャツは指定されていない。推奨品になっている。今年の1年生から推奨品を見直しており、現状は見直し前後のシャツが混在している。

部会長 ・その他、質問等はあるか。

委員 12 ・その他の指定しない物品に自転車も含まれているが、現状、ある程度の指定があるかと思う。これが解除されると電動自転車等の10万円を超えるような高額な自転車に乗る生徒が出てくるのではないか。学校で盗難が発生した場合の責任問題をどうするか。自転車を指定から外すことには疑問を感じる。

委員 13 ・入学説明会で高額なものは控えるように言っているかと思うが、値段までは把握していない。ヘルメットについては、法令も変わったのかぶらないことはないと思う。去年から推奨品という形で、今までヘルメットを持っていなかった生徒には買うように言っている。かぶらせないということは絶対ない。

委員 14 ・競技用の自転車に乗っている子もいると思う。もともと自転車競技をしてい

	た子で、中学でも乗りたいと話していた。おそらく認めているはず。また、遠くから通う上では電動自転車は便利だと思う。そうした性能の高い自転車を買ってあげたいという保護者がいれば、そこは任せるべきだと思う。鍵の管理は子どもに任せるべき。
委員 15	・電動自転車に乗っている子が一人いる。その子はバッテリーを毎日朝外して教室に持ち込んで保管している。また、委員会活動で通学用自転車の施錠の点検を行っている。施錠されていない場合は番号で個人を特定し注意する。部活動の時にはそこまで管理しきれていないが、通常は施錠の点検をしている。
部会長	・その他の物品は結論を出さなくても良いか。
事務局	・その他の部分については、本日で結論を出す必要はない。業者に 12 月の物品販売の準備をお願いするため、指定するものについては結論を出したい。その他の準備が必要ないものについては、今すぐ決めるものではない。
部会長	・去年から言っているように目指す中学生像から考えて、大人が考えられるものは大人で考えれば良いと思っている。三中学の生徒は、お互いにやりとりして、どんどん進めていけると思っている。他の地域の中学生を見ている、信じて任せれば良いと思う。先生が絡まなくても十分にやっていけると思う。このように意見が出たということで、その他の物品については、また後々、決定していけたらと思うが、いかがか。
事務局	・形だけが決まって、それだけが一人歩きするということになると、学校が教育を放棄したような印象で伝わりかねない。あくまでもこの規定とそこに込めた趣旨が、子ども達の自主性を育てるという思いをみんなで共有していく必要があると思う。今のような議論は、いろいろなところでしていく必要があると思う。
部会長	・通学カバンについて、事務局としては、大容量のものを推奨品として扱う。これについて、意見はあるか。
委員 16	・息子が中学から高校に上がったが、同じようなカバンを買った。親としては高校でも使えるものが中学校からあると便利だと思う。
委員 17	・先ほど話にあったが、カバンを 2 つ持って通学している。大容量のもので 1 つに収まる形であれば簡素化できて良いと思う。
部会長	・大容量のカバンとなると、教室やバス等でスペースをとるということもある。また、両手を塞ぐ形になると危険も出てくる。いろんな観点で今後も引き続き考えていけたらと思う。カッターシャツ以外のポロシャツ等の話については、これも先ほどの含めてで良いかと思う。ズックについては、どうか。
事務局	・業者の提案をこちら側から絞ると、業者選定に際して何か便宜を働いたのではないかという話になりかねない。基本的にはどれでも良いとしているが、先ほどの話にもあったが、靴の販売というのは非常にリスクが大きく、細かなサイズごとに多くの在庫を抱えてる必要があるということで、おそらく勝山市内ではそんなに提案されないかもしれないという読みもある。最終的には特定の品物になることも想定して、という意味でご理解いただければと思う。方針を決めることについては学校運営部会でご了承いただいたということで、次のステップにつなげて、再編準備委員会で提案させていただきたく思う。よろしくお願いします。

(連携型中高一貫教育について)

部会長 ・引き続き次をお願いします。

事務局 ・連携型の中高一貫教育について話をしたい。新中学校は勝山高校の敷地に建設をする。高校と中学校が渡り廊下でつながる環境になる。3つの中学校が1つの中学校に統合するという事で勝山市は令和9年度から公立の中学校は1校である。そういう学習環境で勝山高校と新中学校の間に連携型の中高一貫教育を導入したい。再編計画や基本計画にも示してこれまで準備を進めてきた。今年度は掲げた内容をさらに具体的にどう進めるのかを詰めていく。学校運営部会で次回以降いろいろと相談させていただきたい。今日は初めての方もいらっしゃるし、連携型中高一貫教育の中身はどんな中身なのかを説明させていただきたい。その中で勝山で進めようとする形、事務局の方で早急に決めたいこともあるので説明の中でこの点については皆さんのご意見をいただきたいということも示したい。資料5をご覧ください。連携型中高一貫教育は福井県では表のようにあわら地域、越前地域、美浜若狭地域の3地域で平成14年度からだと思うがずっと実施をしている。ここに4番目として勝山が入ろうとしている。福井県でやってきた内容を例として示したい。表の左上に単独連携クラスの設置といきなり難しい言葉が出てくるが連携生徒という扱いがポイントになる。連携生徒というのはあわら地域で言うとあわら市には金津中と芦原中の2つの中学校がある。それが金津高校と連携型の中高一貫をやっている。あとの2地域もにそれぞれ高校と中学校がつながっている。あわら地域の場合は金津中と芦原中に入学した生徒がいろいろな高校へ希望していくと思うが、自分は金津高校に行きたいと決めている生徒、第1志望にしている生徒の中で中高一貫という仕組みに入るかどうかを2年生から3年生になる時、2年生の3学期に判断をしてもらっている。あとの2地域も同じ時期で具体的には2年生の3学期に3年生から連携生徒として教育を受ける。希望者を選考して連携生徒を決めている。連携生徒になった生徒は3年生になると連携クラス、生徒が集まったグループをクラスと県は言っているが、連携クラスの生徒に対して下にあるような連携教育を行なっている。3地域それぞれ違いがあってあわら地域の場合は中学校の中に1クラス単独で連携生徒だけのクラスが3年生になるとできる。20人ぐらいそれぞれ選考するのでクラスが作れる。ところが越前や美浜若狭は中学校の中は連携生徒は選考して決めるが人数が多くないので通常は普通学級で生活をしていて単独のクラスは作っていない。教育内容をするときにはクラスを離れて連携生徒だけ取り出すという言い方をするがその子らに対して連携教育をするスタイル。ここがあわらと違っている。連携生徒になると高校入試のところで5教科の学力検査をしないで面接で選考して金津高校や丹生高校とか連携高校に入る、というような仕組み、簡便な入試という言い方をするがそういう制度で進学をしている。簡便な入試を受ける資格というか受けられるのはこの3地域については連携生徒になることが条件、そういうような仕組みになっている。受け入れ側の高校も金津高校と丹生高校には高校にも連携生徒だけのクラスを設置している。金津は2クラスあって丹生は1クラス。美方高校については連携生徒は簡便な入試で美方高校に入るがクラスは一般の学力検査で合格してきた生徒と混合クラスで単独の

連携クラスはない。どういう教育を行なっているのかが文字が多くて申し訳ないが、3地域に共通しているのは3年生の数学と英語に回数は差があるが高校の先生が来てチームティーチングという形で中学校の先生、高校の先生2人で授業をするスタイル。金津中、芦原中だと現在は中3の4月から数学については週4時間、すべての数学の時間をチームティーチングでやっている。同じ金津でも英語については週1時間高校の先生が来る形のチームティーチングの授業をしている。越前地域で朝日中は週1時間程度数学も英語も先生が来ている。美浜若狭の方は美浜中と三方中については週1とは決めていなくて月に数回と聞いている。頻度は少ないがチームティーチングをしている。数学と英語でするのは、学力差がつきやすいということということもあって共通して行なっている。あわら地域に戻るが1学期2学期はチームティーチングで中学校の教科書をどんどん進めていく。あわらについては時々、普通は中学校の数学なので中学校の先生が前に立って高校の先生が後ろで個別指導とか支援に回るが交代してたとえば因数分解の勉強を中学校でしたら来週は高校の先生が教壇に立って高校でやる因数分解にも挑戦しようという高校の指導もする。金津は中学校がT1、高校の先生がT2、前に立つ先生をT1というのが順繰りに交代しながらやっている。越前や美浜は基本的にずっと中学校の先生が授業をして中学校の教科書を終える。それを高校の先生がT2として支援に入るという形をとる。教科書が終わった時点で高校の内容に切り替えて発展的なことをやっていく形。連携クラスなり連携生徒のグループを作って特定の子に対してチームティーチングを行なって一部高校の内容も教えながらやっていくというスタイルなので高校に入ったときにある程度高校の勉強を他の子よりやっている。金津高校の連携クラスに入ると連携クラスの数学の単位は他のクラスより1単位減らしている。丹生高校についても同じように数学英語の単位を1単位減らすようなことをしている。こういったところが連携生徒を中高とつないで6年間を見通した中高一貫教育という形でやっている特徴である。通常の授業以外でも夏休みや冬休みにサマーハイスクールとかウィンターハイスクールとして集中講座、中学校の復習とか高校の発展的な内容をやるとか地域によっては大学の先生や外部の人が来て授業をするとかキャリア教育的なことをするとか探究的なことをやるとか特徴はそれぞれあるが長期休業中にもやっている。このようなことを進めていて中高をつないでいくのが福井県の連携型である。これを福井型の中高一貫教育とよんでいる。特徴としては連携生徒を選考して単独クラスを作ったりグループを作ったりしてやっている。ここから我々の考えと皆さんのご意見を聞きたい。復習になるが連携生徒を選考することは福井はやっているが県外、全国を見ると必ずしもそうではない。選考をせずに全員が連携生徒だというスタイルでやっているところもある。福井県の場合は連携生徒を3地域とも選考しているので福井型のやり方という言い方になっている。では勝山はどうするのか。事務局の中でもきちんと方針を決めているわけではない。思いはあるがいろいろ悩んでいる。勝山は他の地域と違って中学校が1校になる。勝山高校の中に校舎を建てる。そういう環境の中で特定の生徒だけ連携生徒として選んでその子だけに中高連携のプログラムをやっていくことはどうなのかという思いがあ

る。全員を連携生徒の形にして中高一貫の教育効果の高いプログラムを全員が享受できるようなスタイルにできないかと思っている。連携生徒については選考する場合は2年生の3学期に選考して3年生から連携生徒として活動する。選考しない場合は全校生徒が連携生徒の扱いになる。中高連携のプログラムは選考する場合は連携生徒が対象である。選考しない場合はだれを対象にするのかがある。高校教員が参加するチームティーチングについても全員が受けられる形にするとか、探究学習とかを含めて中高6年間を見通したプログラムを作る時に位置づけを決めていかないといけない。勝高志望者については直接勝山市がどうではないが地元の高校としてしっかり存続してほしいし、ほとんどが勝山の子なので勝山高校を志望する子を増やしていきたい思いがある。連携生徒を選考する場合は簡便な入試で選ばれた子は面接等でストレートに高校進学が決まってしまう。選考しない場合に勝高進学の優位性となる簡便な入試みたいな形でできるだけたくさん入学させたいという思いはある。どういう仕組みにしていこうかというのを考えないといけない。連携生徒を選考する場合でも簡便な入試で金津高校に行く子もいれば連携クラスに入らないが一般入試で金津高校に行く子も当然いる。そこは自由。課題としては連携生徒を選考する場合は中学校にお聞きするとなった時点で勉強のモチベーションが下がる子がいて維持向上するのにいろいろ工夫が必要である。連携クラスに入るといことは金津高校なり丹生高校、美方高校に進学するということが決まるので普通科高校だったら藤島へ行きたいとか高志へ行きたいとかそういう子がいると最初から連携クラスに手を挙げない。学力上位の子ども達をどうやって連携クラスに入れないといけないかを考えていく必要がある。選考しない場合になると中高連携のプログラムが全員対象となればすべてを対象にしているとだれを入試で優位性をつけて勝高にというところの差がないので希望者とか特定の子に対するプログラムを考えるとメリハリをつけていかないといけない。メリットとしては連携クラスを作る、そういう生徒を作る方が勝高にいくわけだから一定の生徒は確保できる。こういった高校においてもどういう高校に進学しても自由。選考しない場合は当然みんながプログラムの恩恵を受けられる。我々としては選考しない場合は県内に例がないので他県の様子も調べながらそういう形に行けないかと悩みつつ選考した方がいいのではないかなという意見もあって考えていかないといけない。この点がご意見をいただきたいところ。わからないことがあるかもしれないので制度や各地域でやっていることの質問も含めてお聞きいただければいい。今日は連携型中高一貫とはこういうやり方をしていると理解してほしいというのが大きな趣旨。加えて連携生徒を選考するとかしないとかのところを勝山としてはどのようにしていくといいのか。皆様のご意見をいただければありがたい。協議をよろしくお願いしたい。

部会長 ・周りの方にも聞いていただいたりする中でいろいろな考えとか視点が出るのかと思う。今日はご意見を伺うが次回は違う意見になっても構わないので周りの方のご意見も含めて聞いていただきたい。補足で高志高校、高志中学校は併設型で立地的には勝山の新中学校と勝山高校は高志に近い。先だってある用事で高志中の校長室へ行ったときにきれいな小さい絵とか折って立体

的に開いて形になるものが置いてあってどうしたのかと聞いたら高志中の卒業生が高校生になったときに感謝の気持ちを込めて作ってくれたものだった。卒業生が高校はこうだと校長先生や先生方に伝えに来る。一方で高志中学校の先生は高校生活でどうやっているのかとか勉強でそういうところでつまづくのかを見て改めて中学校の授業に反映していったりする。そういう点が同じ敷地にある中高の強みだという部分もある。連携型について中学校に対してどうかという話になっているが高校生になったときに中学校側をサポートしていける、相談に乗ってくださいと中学校の先生のところへ来るという強みもある。中学校側から見て高校に行ったときにも中学校の先生がサポートするという関係もある。紹介しておく。話を聞いていて質問や意見があれば出していただきたい。

委員 1 ・質問だが美浜の方の項目に連携生徒は連携高校以外のところにも進学してよいとなっている。他は確定になっている。デメリットはないのか。確定のところはちゃんと高校につながったと思うがここだけは自由なのでうまくいっているのか。

事務局 ・聞いた話になる。地域の特性もあってこういった制度を入れるときに特定の子を決めてしまうようなことは地域の方もあまり望まれないという背景があったようにも聞いている。実際にみんなバラバラの学校に行っているかというところではなくて人数は少ないが敦賀高校や若狭高校を希望する子も出ている。学校としては美方高校に来てくださいということで一生懸命やっている。中にはそういうことがあってもダメということはしていないと理解していただければと思う。

部会長 ・現状、抜ける子がいる。いるが受けても良いのならと連携クラスに入っていく子達もいる。

委員 2 ・個人的には中高一貫の連携はわざわざ選考しなくてもいい。目的を見た時に選考しない場合が合致する。言い方は悪いが勝山高校が存続するためだけの連携ではない。確かな学力の育成と生徒一人ひとりの個性や創造性を伸ばすという観点であれば勝山高校の魅力だったり中高が連携していろいろな生徒が機会をもって高校の勉強だったり学校生活にふれて地元に残ってしっかりやりたいという機会がどちらがあるかと考えると今日の気分は選考しない場合になる。あわら、越前、美浜も勝山と同じ境遇だと思う。人口流出は止められない。その中でこの資料からは地元に残ってほしいという臭いがすごくする。果たしてそれでいいのか。個人的には小学校から大学まで福井にいますのでずっと地元に残るという意味では奇跡な方だ。就職も勝山。縛られてここに残るというのはない。親御さんからもそういう目線で見られないようにするには選択の自由がある。その中でしっかり自分たちが決めていけるような風呂敷を広げられると考える子は考える。考える子には選択肢を増やした方がいい気がした。今回の説明ではそう思った。

部会長 ・武士に二言がない時代ではなくて修正主義の時代でいろいろなことを見聞きして修正していくことが大事。もちろん次回も同じ意見でもいい。

委員 3 ・中学校 1 年生の時に 2 年の時には進路を決めておいてくださいと説明があった。そうすると何をしたいかが掲げられると思う。それも高校にわかる。何々の専門科がどこどこにあったら行こうかなと家族で話もしている。勝高

	の魅力があるといい。たとえば何々科というのがあればいいのにと周りから声を聞いている。勝高にない科が大野の方にあるからと聞いたりする。考えていただけるともう一つ魅力が出てくると思う。
部会長	・今のことはご意見、感想でよろしいか。何か求めているのか。
委員 4	・半分求めている。他の方がどう思っているのかも。一中学生の保護者の意見として。
委員 5	・あわら、越前、美浜若狭地区で連携をされていて運用自体はうまくいっているのか。それなりの成果が出ているから勝山でもしたいということだと思いが結果としてはどうなのか。
事務局	・この3つの地域は中学校と高校が離れている。高校の先生が中学校に行って授業を手伝うにしても車に乗っていつている。1時間の授業をするのに前の時間に移動して授業をして次の時間に帰ってくる。時間がかかる。生徒同士の交流も移動が発生すれば連れて行ったり連れて来たりがある。その意味では苦労している。最近はオンラインが出てきたので少しハードルが下がっているかと思うがそういう面はある。勝山の場合は渡り廊下で中高がつながるのでその面ではハードルが低くていろいろなことができると思う。連携クラスは手を挙げて希望して選考される形でほとんど落ちることはないが希望している子はやる気をもってどんどんやっていく。手を挙げない子で本当はほしい子が他の学校に行って入ってくれなかったり入った子が入試がないからモチベーションが下がったりということは共通の課題として持っておられる。長年やっているのもそれぞれ工夫していろいろと一生懸命やっている状況である。
委員 6	・ほしい子というのはどういう子か。
事務局	・たとえば金津高校だと福井の方へ行かないで金津高校に来てほしいと思う。勝山高校も福井の方へ行かないで普通科を目指す子なら勝高で勉強してほしいと思って募集する。この辺だと藤島、高志へ行きたい子がどんどん勝高に来てほしい、魅力を出して。なかなかこういうクラスを作る時に入ってくれない、手を挙げてくれないということがある。
委員 7	・承知した。
委員 8	・先ほど勝山は高志中のように併設型に近いと言われたが連携型との違いを教えてくださいと皆さんわかるかと思う。
事務局	・併設型は中学校に入るときに適性検査という形を受け選考される。小学校6年生が受験する。入った高志中学校の生徒は基本的に全員ストレートで高志高校へ入試なしで行くというスタイル。つながっているので現在の高志中学校も中3の時に高校1年生の勉強をしたりして早く授業が進んでいく。進度が速いのではなくて時間数も多いので普通のペースでやっても他の市町の中学校よりも早く教科書が終わる。連携型よりも結びつきは強い。
部会長	・勝山市立と福井県立だと併設型にならない。設置者が同じで福井県立高志中学校、福井県立高志高校になる。勝山市立勝山高校となれば設置者が同じになるので併設型になるが勝山市立高校にした場合に教員はどうなるのか難しい部分があって設置者が同じは難しい。それでよろしいか。
委員 9	・はい。
委員 10	・私の子どもはこの統合に絡まないが統合するにあたって中学校のメリットは

	聞くが高校のデメリットは多少あると思う。高校の先生が中学の教科を見にいく話も聞く。高校側のメリットはあるのか。
事務局	・基本的に中高一貫なので6年間を見通した教育課程を県教委と我々の方で協議して作っていくことになる。決して中学校3年間だけの中高一貫ではなくてそこで学んだ子が連携高校に行って次の3年間も見通したプログラムを作っていくかといけない。勝山高校もプログラムを受けてきた子をさらにどう伸ばしていくかを考えていただいて我々とカリキュラムをつないでいくことをしていけないといけない。今の中学と高校の関係と比較をしてみると中高連携で高校の教員にしてみると数学や英語で頻度に差があるにしても中学生をいつも見ている関係になるので中学校の段階から学力とかどういづつまずきがあるのかがわかる。中学校でこのように教えているのか、ここまで教えているなら高校1年生の授業はこのように進めればいいのか接続が円滑にできる。中学校の教員も高校の授業を見て教え方を考える。教員の交流もあってお互いの授業改善とかが円滑につながってできる。中学生と高校生の関係も中学生は先輩からいろいろなことを教えてもらったりする立場になるが高校生は先輩として後輩に教えたりアドバイスをしたりして伸びていく。それが校舎を隣接して日常的に交流や行事も含めてすることで中学生も高校生も共に伸びていくような効果をねらっていく。
委員 11	・勝山高校は探究特進科を作って3年目に入っている。探究活動を中心にすすべていろいろな学びを探究的に行う方向に進んでいる。すでに始めているのが中学校での探究から高校での探究にどうつなげるか。中学校で学んだことが高校にスムーズに接続するための協議を昨年度から開始している。中学校と高校の先生が激論しながら考えている。高校生が自分のテーマに沿ってまとめたことを中学生に伝える。それはいろいろなことを理解した上で説明しないといけない。日頃から探究活動はアウトプットで外に発信したり、プレゼンしたりしている。中学生に説明する場合はさらにその力を考えた上で伝えていくことが大事。そういう身近な機会があるので高校にとっても生徒にとってもメリットが多い。
部会長	・もう1点補足をすると中1ギャップとか高1ギャップとか中学校に入ったときに戸惑いがある生活になれるまでに時間がかかる。その観点から言うと高校の先生が教えに来ていただいているので高校に入ったときに知っている先生がいることになる。心理的に安心して高校生活にすんなり入っていけるメリットがある。教員側から言うと高校に入って戸惑ってこんなはずではなかったと時間がかかる子が出てくるとするとその子にかかる時間がかからなくなるのでその部分をいろいろな生徒との接する時間にあてることができる。それは結局生徒にかえてくることになるのでメリットは大きい。もう1点、10年ほど前からだが東京都の私立や公立一貫校を受ける小学生の親は何を見て決めるかという東大にどれだけ受かったとかという数ではなくてそれぞれの中高一貫校が「うちに来たらこんな生徒に育てます。他の中学校や高校にないこんな生徒に育てます。」とどんどんPRするようになる。どこへ進学するかではなくてどんな生徒になってどんな力がついて大人になってくれるのかということを選ぶ観点にして切り替わってきている。こういうことを経験させますとか、勉強だけではない。勝山中学校も改めて目

	指す生徒像があるがそこを具体的に何で実現していくのかがこれからの課題というか肝の一つに感じる。
委員 12	・連携のやり方がよくわからないが金津高校、丹生高校、美方高校があるが高校に来ていただく各高校の試算だと思う。金津高校は中学校で先行して優秀な生徒を育てたいという思いがあるのかと思う。勝高はどうするのか、中学校から育てていって優秀な生徒になってほしいと同時に勝高の生徒も確保したいということでもいいのかと考えていた。
部会長	・引き続き感じたことを言ってもらえればと思う。いろいろな意見がないとまとめた思考ができない。入試がない分勉強しないのではなく、入試があるがためにかけないといけない時間をかけなくていい。高校入試の勉強をしなくていい。その分を課題追及とか卒業するまでに 8000 字ぐらいの論文を書いたりする。そういう経験値をもって高校に行く。さらに大学や世の中に出ていく。その部分に時間をかけられるメリットがある。時間が限られた中で何日かけられるか。補足で説明した。他によろしいか。
事務局	・お忙しい中、感謝。たくさんご意見をいただき今後にいかしていきたい。次回は日程ははっきりしていないが 6 月下旬に予定している。改めてご案内するのでよろしくお願いしたい。これで本日の学校運営部会を終わりとしたい。ありがとうございました。

資料 1. 令和 7 年度入学生用「入学のしおり」作成に向けて(12 月開催予定)(案)

資料 2. 勝山市内三中学校「入学のしおり」掲載事項

資料 3. 令和 7 年度学校指定物品等(案)

資料 4. 勝山市内三中学校指定物品と服装規定など

資料 5. 福井県内の連携型中高一貫教育校の状況